

書評

〔評者〕

本村和久

沖縄県立中部病院
プライマリケア・総合内科



臨床推論ダイアログ

杉本元信 編

瓜田純久・中西員茂・島田長人・徳田安春
編集協力

A5 変型判 頁 456 2010 年

定価 4,410 円(本体 4,200 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-01057-3] 医学書院刊

表題の通り，病歴，身体所見から診断に迫る臨床推論の醍醐味を満喫できる名著である。難易度の低いものから，高いものの順に全部で 40 症例，どの症例も興味深い。東邦大学医療センター大森病院での経験をベースに書かれているとのことだが，臓器別ではない，診療科を超えた疾患のパラエティー，15 歳から 94 歳までという年齢の幅，さまざまな垣根を取り払った総合診療の実践の素晴らしさを読んで実感できる。

1 例 1 例は明快な症例提示で始まり，さらに臨床推論→確定診断と小気味よく，研修医と指導医の対話形式で展開していく。その議論はわかりやすく病態に迫るもので，重篤な疾患の見落としがないように，慎重に鑑別診断を絞っていくさまは，指導医の思考過程そのものであり，臨床推論のまさに生きた教科書であると感じた。

診断名は各症例の最後にしか提示されないもので，必然的に的確に診断できるかと腕比べ(頭比べ?)となる。難易度の低いとされている症例も，診断を間違えてしまうかもとドキドキであった。難易度の高い症例になるにつれ，こういう展開もあるのかと膝を打つも

のばかりで，例えば CASE 36 の 35 歳女性「両下腿浮腫と両下腿痛」は，「こんなに急激に悪化するものか，やはりダイエット……」，おっと，ネタばらしになるのでこれ以上具体的に症例をご紹介できないのが残念である。

本書は，単に診断当てクイズでなく，病態生理に関する深い議論もあり，読み応え抜群である。研修医向けに書かれているように見えるが，内容は，明快，簡潔ながら深いもので，臨床経験の豊富な医師でもとても勉強になる内容である。優れた解説を読むにつれ，こんな名医の指導を受けることができる研修医は幸せだろうと，本の世界ながら引き込まれて，私は一気に通読したが，1 例 1 例は，10 ページ余りであり，忙しいときでも拾い読みできるのも本書の長所であると感じた。

最後になりましたが，多忙な臨床の中で，臨床推論の面白さを十分に知ることのできる本書をまとめられた編集の杉本元信先生をはじめ東邦大学医療センター大森病院の先生を中心とする執筆者の皆さまに敬意を表します。